

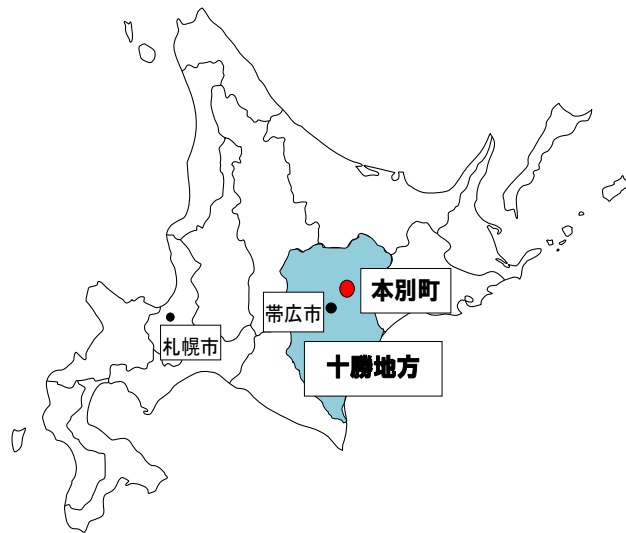
【北海道 十勝地方】 「ソーシャルファーム十勝農場(仮称)」の 設立支援事業 進捗状況について

平成25年2月26日

NPO法人コミュニティシンクタンクあうるず

1. モデル事業実施地域の課題

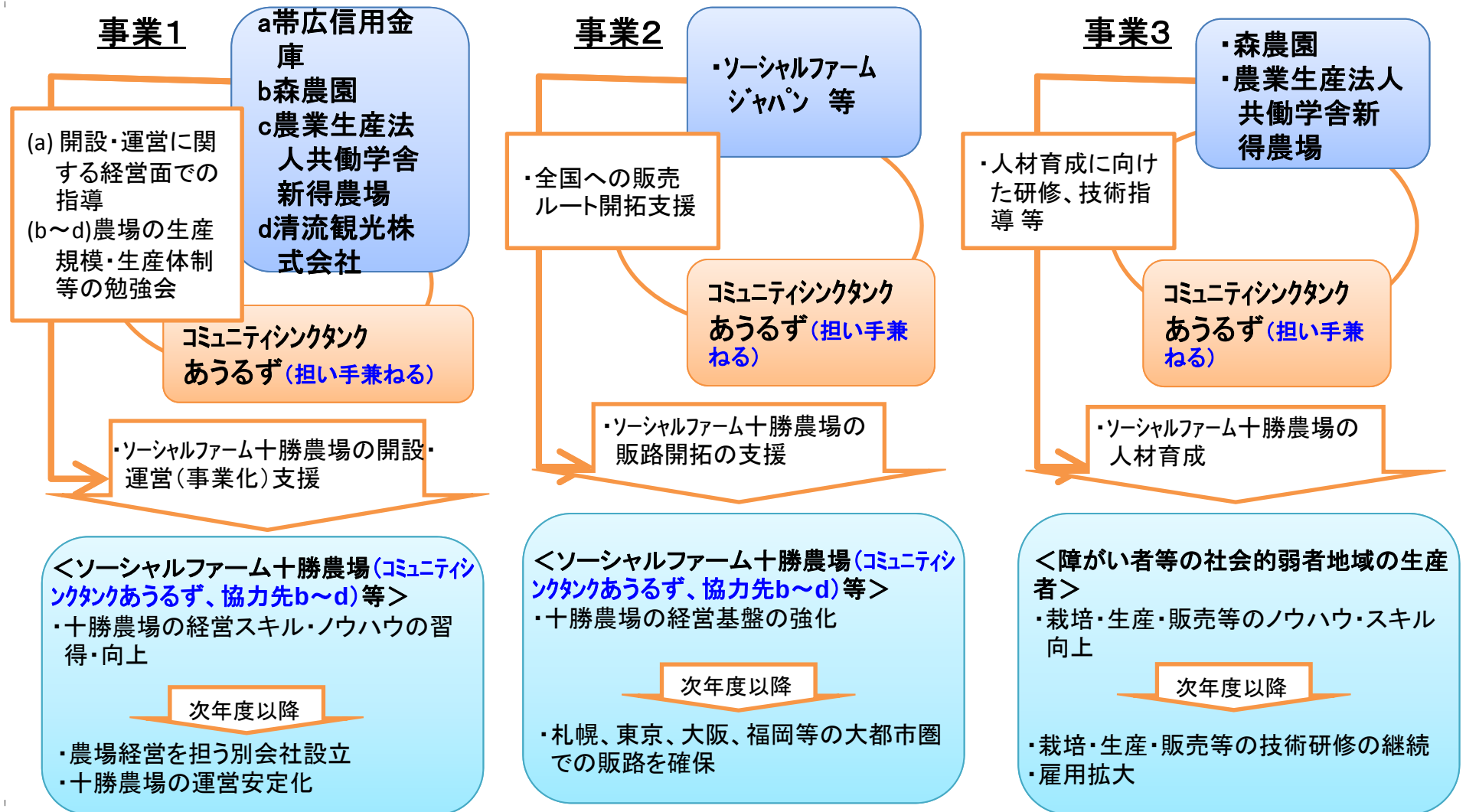
(※1頁以内)



【実施地域の課題】

- ・十勝の一次産業就業人口は年々減少(2000年に28234人→2010年で25509人)しており、現在は労働生産性の向上により粗生産額を何とか維持している状況である
- ・このため、新たな労働力の確保と、農業の6次産業化等による高付加価値化の取組みが急務となっている
- ・新たな農業の担い手として、障がい者施設や授産施設を活用した取組みが着目されており、共働学舎新得農場のチーズ生産などの先進事例が存在する
- ・一方、厚生労働省の「工賃倍増5か年計画」で示されるように、障がい者施設においては賃金水準の向上が課題となっている
- ・道内の障がい者施設や授産施設等に対して、平成21年に実施したヒアリング調査にて、それら施設において農産物や加工品等の製造、販売が行われているものの、市場に受け入れられる商品になっていない現状が明らかとなった。また、それら施設においては「なんでも作れるが、何を作ればよいかわからない」といった声も多数聞かれ、製品の企画やデザインといったマーケティング機能の充実が課題として明確となった。
- ・授産施設や小規模作業所においては製品の販路拡大が急務であり、統一ブランド展開や共通カタログなど販売のプラットフォーム化が求められている。

2. モデル事業概要



本モデル事業を行うことにより、当該地域が抱える農村地域の担い手減少と、障害者福祉施設における生産物の高付加価値化による自立支援、という課題を解決する事を目指している。

3. 各事業概要及び成果

①「SF十勝農場(仮称)」の開設・運営に係るコーディネート

「担い手」(「SF十勝農場」の運営主体)を対象として、農場の開設・運営に関する助言・指導、及び生産規模・生産体制等を検討するための勉強会を3回程度開催することにより、「担い手」(「SF十勝農場」の運営主体)の経営ノウハウの取得を図る。

勉強会を通じて、ソーシャルファームに関する理解を深め、目指すべき方向性のイメージについて関係者の間で共有し、その後の協働がスムーズに進行するように下地を整えることが目的です。

担い手および協力者の面々を集め、ソーシャルファームの概念、および本事業の目指す姿について、講義とディスカッションを組み合わせた勉強会を開催しました。

- ・10月29日 本別町会議 (参加者:本別町副町長、保健福祉課長、農林課長、社会福祉協議会、総合ケアセンター等の代表者)
- ・12月7日 本別町会議 (参加者:本別町副町長、企画課長、本別町商工会、社会福祉協議会、帯広信金、森農園など)
- ・12月18日 本別町研修会(参加者:本別町職員、社会福祉協議会職員、総合ケアセンター職員など)

ソーシャルファームジャパン十勝農場



ソーシャルファーム

- ▶ 発祥は1970年代の後半、北イタリアのトリエステの精神病院が起源である。
- ▶ 通院治療のほうが治療効果を期待出来る患者さんに良い仕事が見つからないため入院患者と職員が協働で、「雇用の場の創出」に取り組んだ。
- ▶ ヨーロッパに1万社以上設立され、母子家庭、DVの被害者、刑務所からの出所者など幅広く裾野が広がっている障害者の働く場所になっている。



イギリスのソーシャルエンタープライズ

- ▶ 「社会的な目的を持ったビジネスで、その利益は、主にその社会的な目的のために、ビジネスあるいはコミュニティに再投資される」
- ▶ ヨーロッパでは4000社、9.6万人、平均1億円の売り上げを上げている。
- ▶ ソーシャルエンタープライズから得られる経済効果は農業分野の2.5倍あると言われ、経済的に大きな比重を占めに至った。



フランス ジャルダン・ド・コカーニュ

- ▶ 1991年設立 プザンソンで耕作放棄地を活用し農業をツールに社会復帰をすすめる組織。
- ▶ ホームレスや、長期失業者、刑務所出所者により有機農業をすすめ、社会的目的に賛同・出資してくれる提携家庭に毎週農産物を提供する。
- ▶ 120カ所のジャルダンと700名の常勤有給スタッフ、1500名のボランティアスタッフにより4000人が職業訓練を受けている。
- ▶ 20000世帯の提携家庭に支えられている。



障害者の雇用

- ▶ 障害者の雇用率は精神障害者17%、知的障害者52%に及んでいるが福祉的施設への雇用が中心である。
- ▶ 民間企業の障害者法定雇用率は目標値の1.8%に対し1.69%にとどまっている。

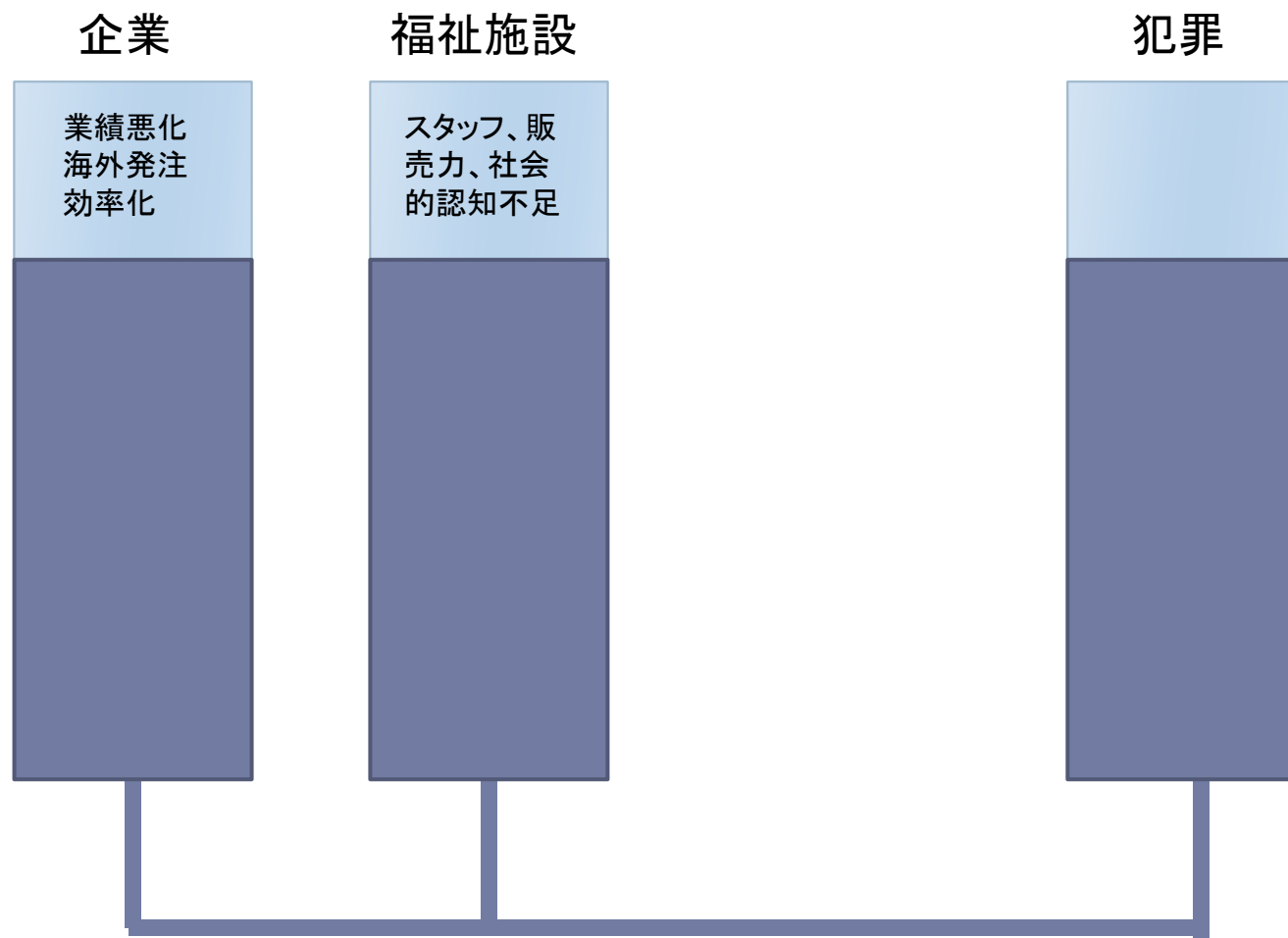


犯罪 高齢者と障害者の再犯率が高い

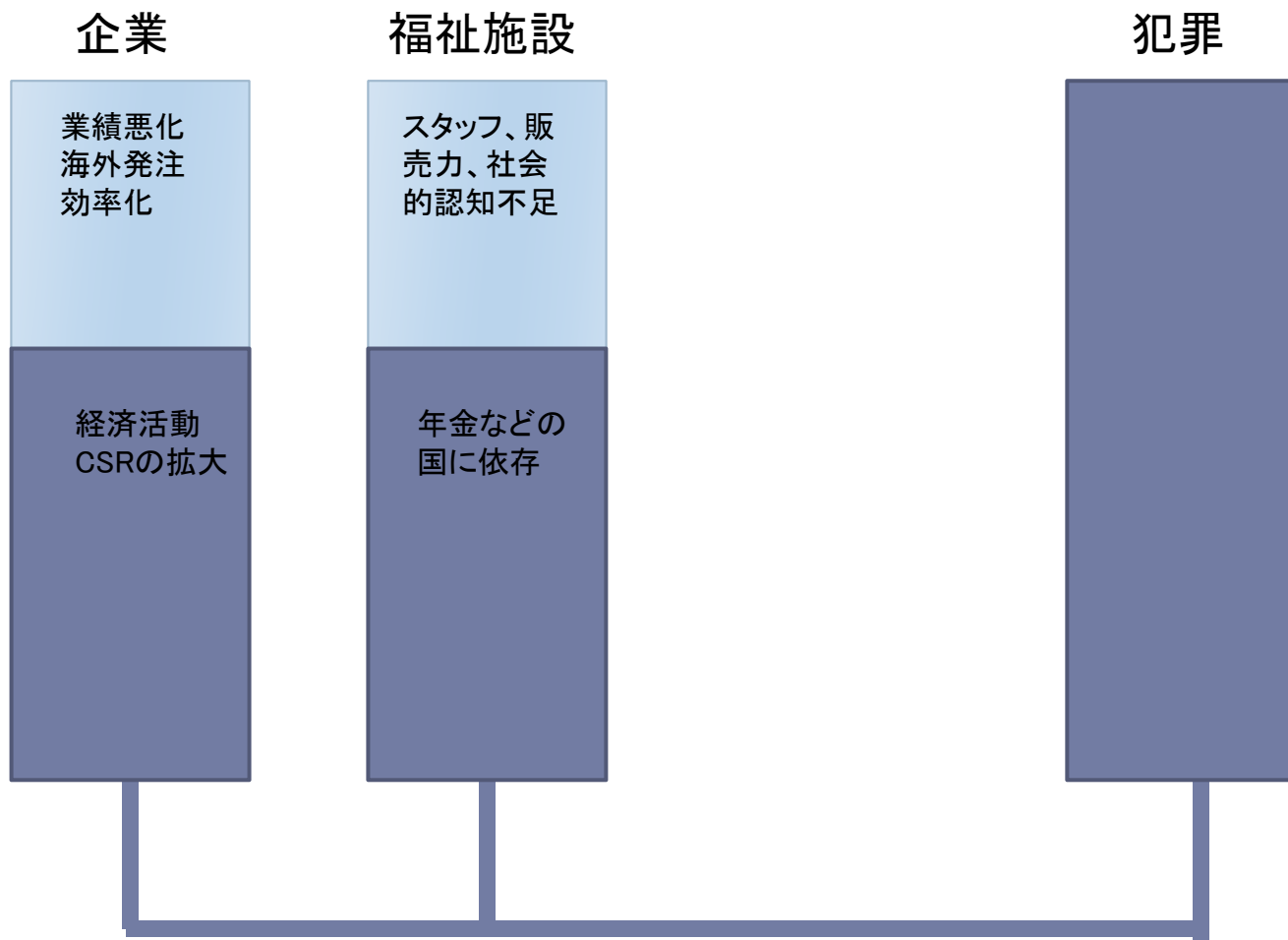
- ▶ 再犯者による犯罪増加 約3割の再犯者によって、約6割の犯罪が行われている(168万件)
- ▶ 平成22年における再犯者の比率は43%、刑務所への入所受刑者人員に占める再入者の比率は56%であり、いずれも近年において上昇傾向が続いている。
- ▶ 高齢者の再犯者のうち一年以内に出所した人47%と高く帰る場所がないため仮出所比率が低い
- ▶ 精神障害等受刑者8%(少年院9%)で年々増加傾向



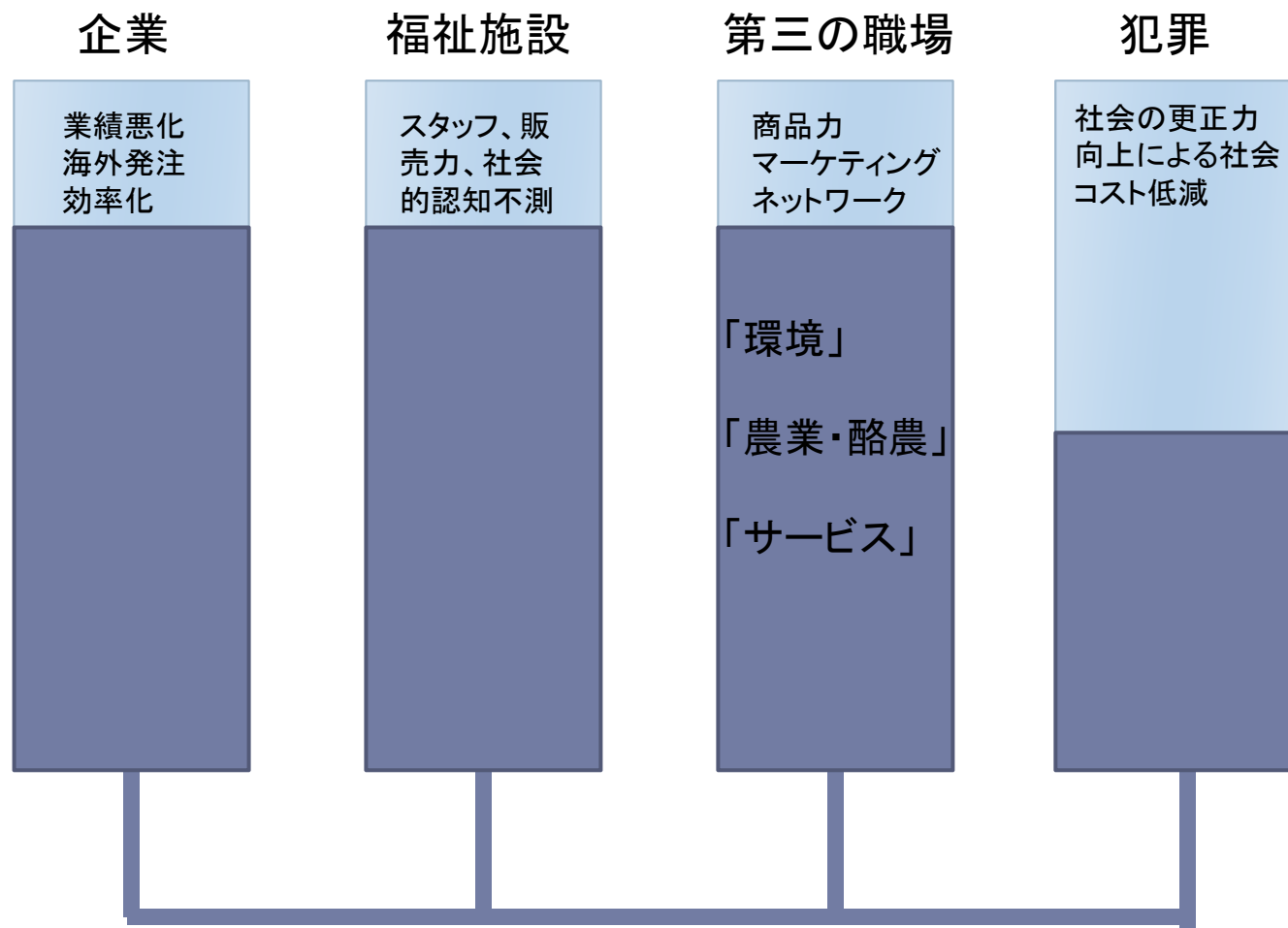
社会的弱者をとりまく環境整備



社会的弱者をとりまく環境整備



社会的弱者をとりまく環境整備



本事業での支援

- ▶ 全国で食品製造と販売を行っているソーシャルファーム団体へ良質な農産物と加工品を供給することによって支援する。
- ▶ 生産する農場(ソーシャルファームジャパン十勝農場)では、土づくり、各種農作物栽培、農産物加工、販売・流通など多様な職種を用意し社会的弱者雇用を促進する。



SFJ十勝農場システム図

ソーシャルファームジャパンと十勝農場の連携図



本別会議12月7日



12月7日の会議の様子 本別町副町長、企画課長、社会福祉協議会、帯広信金、森農園など関係者が集合

本別会議12月18日 職員と社会福祉協議会

「本別におけるソーシャルファームの可能性」



12月18日の会議の様子 本別町社会福祉協議会、福祉課企画課、産業課（農業）など関係部署が参集

- 1.障害者雇用とソーシャルファームの現状 上野先生
- 2.熊本「ファーム菊池」の活動について ファーム菊池原田代表
- 3.ソーシャルファームロゴの展開について 宮島先生

(中津川甫)

3. 各事業概要及び成果

②「SF十勝農場」販路開拓に係るコーディネート事業

「担い手」(「十勝農場」の運営主体)の販路開拓や提携先の発掘を目的とした会議を4回程度開催する。また、そのノウハウを提供することで、販路開拓等の経営スキルの向上を図る。

全国には先進的な取り組みを行っているソーシャルファームが存在しており、食品加工や飲食店の運営を行っている事業者もあります。SF十勝農場から十勝の食材を供給するにあたって、実際に必要な品目や量などについての情報交換を行いました。また、将来的なソーシャルファーム候補に対する啓蒙活動を行いました。

熊本県のファームきくち、滋賀県の共生シンフォニー、埼玉県のぬくもり福祉会たんぽぽ、東京都の豊芯会など取引先の候補として、さらにはその周辺のソーシャルファーム候補を招いて会議を開催しました。

12月16日・・・(東京)全国のソーシャルファーム6拠点が集合し、SF十勝農場の取組紹介と、今後の協力関係のありかたについて話し合った

12月17日・・・(北海道)ソーシャルファーム・ジャパンから講師を招きシンポジウムを開催した

12月22日・・・(北海道)札幌にて道内50か所の授産施設等が集い自律的な運営を行うために必要となるマーケティングやブランディングについて考えるワークショップを開催

マーケット調査・ヒアリング

埼玉県飯能市 タンポポ 高齢者、障害者との	11月24日
東京都豊島区 豊芯会カフェふれあい 都内ソーシャルファームショップの品揃えについて	11月24日
東京都銀座 スワンベーカリー ・パン素材、スープな十勝産利用可能性	11月29日
滋賀県大津市 共生シンフォニーガンバカンパニー ・安心安全と有機農業について	12月2日
熊本県菊池市 ファーム菊池 社会的弱者を雇用する農場経営の課題について	12月16日



・11月24日：東京都 社会福祉法人豊芯会「カフェふれあい」



●所在地：東京都豊島区東池袋 生活産業プラザ2階

●就労継続支援事業A型

●主な業務内容：接客、軽食の調理、
コーヒーの抽出等

●利用者数：5名

●障がいの種類：知的障害など

●男女比：男性6割、女性4割

●平均工賃：884円

●全収入のうちカフェ事業収入が6割を占める

●課題

工賃としては満足できる金額だが、ボーナスを支給できるようにしていきたい。

店内に利用者さんの休憩スペースがないため、確保していきたい。

・ 11月24日：埼玉県飯能市 NP0ぬくもり福祉会 「たんぽぽ」



- 所在地：埼玉県飯能市
- 主な業務内容：ケアプランたんぽぽ、たんぽぽ訪問介護、メゾネットたんぽぽ、デイサービスぬくもりの館、障害福祉サービス、訪問看護ステーションたんぽぽ、助け合いサービス等、旬菜カフェたんぽぽ
- 対象者：高齢者、障がい者
- 農場規模：約2万㎡（日高に5000㎡）
- 栽培品目：約20種（大根、人参、長ネギ、小松菜など）
- 農場の生産物は自施設ですべて消費

●課題
無農薬で野菜を栽培しているが、雑草の問題など農業は手間がかかるため収益を上げていくことは大変。北海道から加工後（乾燥ごぼうなど）の物を大量に仕入れパッケージ作業を施設で行うなどの形をとっていきたい。

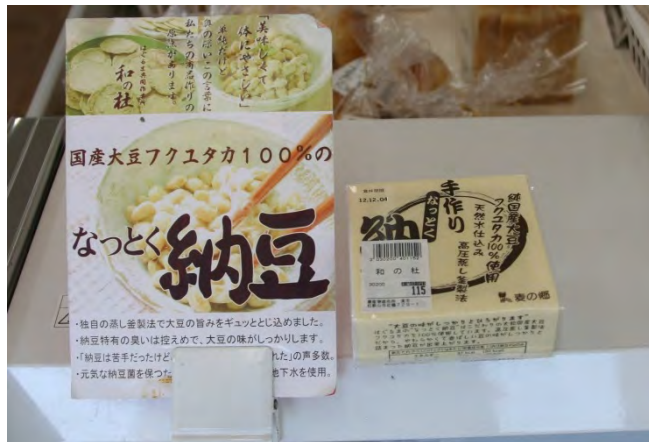
・12月2日：滋賀県大津市
社会福祉法人 共生シンフォニー 「がんばカンパニー」



- 所在地：滋賀県大津市
- 主な業務内容：「がんばカンパニー」は焼き菓子製造。その他に、まちかどプロジェクト／あんふあんカフェ／夢創舎（ゆめつくりや）／デイサービスセンターぬくとば、の5事業所で構成。
- 対象者：高齢者、障がい者
- 利用者数：50人（がんばカンパニー）
- 製造品目：クッキー、パウンドケーキ、ラスク
- 売上高：2億円
- 年間に7トンの小麦粉を使用している

●課題
現在国産小麦を使っているが、これをオーガニック小麦に切り替えたいと考えている

・12月3日：和歌山県和歌山市 社会福祉法人 一麦会 「麦の郷」



- 所在地：和歌山県和歌山市
- 主な業務内容：ソーシャルファームピネル（クリーニング）、麦の郷印刷、けいじん舎（冷凍食品）、はぐるま共同作業所（製パン、菓子製造など）、くろしお作業所（うどん製造）、笑福（うどん屋）、生活支援やリハビリも含め45施設を運営。
- 対象者：高齢者、障がい者、不登校・ひきこもり
- 製造品目：パン、うどん、コロッケ、納豆等多岐にわたる
- 小麦粉は年間9トンを使用し、ほとんどが国産小麦

- 課題
 - ・障がい種別を超えた取り組みが必要
 - ・難病患者、高齢者など、手帳を持たない方とも一緒に地域づくりをして行きたい

マーケット調査とりまとめ

- ▶ 販売力の弱いソーシャルファーム商品販売の拠点化
 - ・豊芯会、たんぽぽのように個店を持っている
- ▶ 個店の収益をあげる良質な農業原料供給
 - ・豊芯会 黒豆、ゴボウ茶
 - ・たんぽぽ ゴボウ茶原料
 - ・ガンバクッキー 小麦

特に有機小麦は国内需要の0.015%しかないと、施設のクッキーやパンの競争力強化には有効な農産物である。



ソーシャルファーム農場ワークショップ

12月16日東京戸山サンライズ・・・全国拠点8拠点との情報交換



ソーシャルファームジャパン炭谷理事長、本別町、
豊芯会、共働学舎、ファーム菊池、共生シンフォ
ニーとの情報交換



ソーシャルファームジャパン総会にて、共働学舎
宮島よりコンセプト説明

ソーシャルファームジャパン総会にて説明

- ・経過報告 SFJと連携する「十勝農場プロジェクト」 菊池貞雄
- ・活動報告 (有)ファーム菊池代表 原田秋彦
- ・ SFJロゴマークの試行報告 宮島慎吾
- ・施策報告 SFJ十勝農場 北海道本別町川本課長



SFJ十勝農場セミナー 12月17日

「農業による雇用確保と地域づくり」

1. ソーシャルファームジャパン十勝農場の展開報告 あうるず菊池
2. 障害者雇用とソーシャルファームの現状について 上野先生
3. 熊本「ファーム菊池」の活動について 原田代表
4. ソーシャルファームロゴの展開について 宮島先生



12月17日ソーシャルファームジャパン十勝農場 刑余者、福祉の農場経営提案「農業による雇用確保と地域づくり」



本別町長からのご挨拶



武蔵野美術大学基礎デザイン学科宮島教授



帯広畜産大学長澤学長



東京家政大学上野教授



熊本県「ファーム菊池」原田代表

全国に展開する可能性



帯広畜産大学、本別町、帯広信金、NPOあうるず、帯広ケアセンター、ファーム菊池(熊本)、豊芯会(東京)、東京家政大学、武蔵野美術大学、法務省、北海道庁、

12月22日 通所型作業所研修会でワークショップ開催



テストマーケティング 2月から実施

滋賀県「ガンバカンパニー」、帯広「森農場有機小麦」、新得「共働学舎チーズ」



完全自然農法の圃場



試験出荷について打合せ



小麦の製粉工場

3. 各事業概要及び成果

③「SF十勝農場」商品の開発・販売に係るコーディネート事業

「SF十勝農場」の雇用対象である障がい者等の社会的弱者を対象に、人材研修を行うことにより、人材育成のノウハウを「担い手」（「SF十勝農場」の運営主体）に提供する。

また、「担い手」（地元農産物生産者）を対象に、地元農業者による農業技術指導、加工技術指導、大手流通事業者による販売指導を実施することにより、栽培・生産・販売等に関するノウハウ移転を行い、経営スキルの向上を図る。

・担い手候補の商品開発、販売に関するスキル向上を目的とし、商品販売に関わる基礎知識について講習会を開催しました。講師には武蔵野美術大学の宮島慎吾教授、NAC商品研究所の中田哲夫氏（元・西友の常務、無印良品ブランドを立ち上げ）をお招きしました。

・クッキーの製造販売で年間2億円の売上実績を持つ「がんばカンパニー」を運営する社会福祉法人共生シンフォニー（滋賀県）から講師を招き、帯広地域でクッキーを製造する福祉作業所を対象に、加工技術や販売に関してご指導をいただきました。

1月28日 本別町にて商品販売に関する講習会を開催



宮島慎吾教授



中田哲夫氏



講習で題材となった商品

1月31日

食品製造に係る技術指導のコーディネート



クッキー製造の福祉作業所



共生シンフォニーの中崎氏



4. 今後の課題・予定

ビジネスモデル検討会・・・

帯広信用金庫、帯広畜産大学と連携し「有機農業」「薬用農作物」を中心とした事業採算性の検証をおこなう。

マーケットと連動・・・

ガンバクッキーとの連携クッキー試作・販売。アンケート回収をとおして、国産有機小麦の価格上昇分を吸収できるか検証する。

地域内での活動・・・

十勝管内2カ所3haの農用地の借り入れ契約を締結予定。4月より有機小麦栽培にチャレンジする。

仲間の確保・・・・・・・・

帯広ケアセンターなどすでに分散的に進められているソーシャルファーム活動のネットワーク化と事業チームの形成

バイオガスによる有機肥料提供・・・

バイオガス農家と連携し、液肥を販売することにより、酪農・再生可能エネルギー・社会的弱者雇用、有機農業を支える仕組みを構築する。

